

市民の絆を強め、

地域振興を担う「酒まつり」

report

「酒」がシンボルのまつり運営 / (社)東広島市観光協会 酒まつり実行委員会



全国から約900銘柄の地酒が集まる「酒ひろば」はまつりの名物。東広島市の職員や学生ボランティアなど1日約150人が協力し、客をもてなす

まちが一体となり、地元の誇りを発信

日本屈指の名醸地、東広島市西条。西国街道(旧山陽道)沿いの約1km圏内に9軒の酒蔵が堂々と軒を連ね、毎年10月、2日間にわたって『酒まつり』を開催している。徒歩で地酒めぐりができる地の利のよさと、日本酒にまつわる多彩なイベントが魅力で、他府県から訪れるリピーターも多い。2011年は25万人が来場し、小さなまちは人で溢れかえった。

このまつりはもともと、72年から始まった「西条酒まつり」と、79年の東広島市制5周年を機に発足した「みんなの祭り」が統合されたもので、地域に新風を吹き込むべく90年に立ち上がった。

創設時の目標は、「県外からも人呼び、まつりを通して西条の誇りを発信すること」。そこで、先代たちが築き上げた2つのまつりの仕組みを踏襲しながらも新しいテーマを考案し、リニューアルを実践していく。

まず、地場産業の日本酒をより大きな視野で捉え、「世界に誇る日本唯一の酒」と位置づける。まつりの名称に地名を入れず、『酒まつり』と銘打つが、それは、土地を限定しないことが「日本発」という意味合いを強めると考えたからだ。さらに他地域へもアピールするため、西条の地酒にとどまらず全国から数百種類もの銘酒を集め、試飲できるイベントを企画。全国の日本酒ファンに向けた名物イベントとして打ち出した。

さらに、蔵元にもいっそうの協力を呼びかけ、酒蔵で行うイベントの数を徐々に増やすと同時に、会場を他のエリアへも広げ、大規模な屋外居酒屋やス



おおきなびやし
大酒林をかつぐ御輿行列。まつり
初日の朝、酒の守護神・大山咋神
を祀る市内の松尾神社にて神事
を行ったあと、メイン会場へ向かう



市の公園を利用した「五千人の居酒屋」。
飲食ブースがずらりと並び、大勢が飲み食い
する光景は圧巻。ステージイベントも楽しめる



昨年は地元の大学生、約
800名がボランティアに参
加。まつりに協力すること
が地域貢献につながり、市
民との絆を強める



なまこ壁と赤レンガの煙突が連なる酒蔵通り。
1650年頃から酒づくりが営まれている



西条では1年を通して蔵元
が開放され、まつり以外で
も各蔵自慢の日本酒を飲み
比べできる。軟水の賀茂山
系伏流水で仕込んだ酒は、
まるやかな旨口

「酒造り唄」を披露する蔵人。来場者の増加とともに蔵元
の酒まつりへの参画意欲も向上し、限定酒の販売や酒
蔵コンサートなど、様々な独自イベントを企画している



「社東広島市観光協会 酒まつり実行委員会」問い合わせ先

〒739-0025 東広島市西条中央7丁目23番35号
TEL: 082-420-0330 FAX: 082-420-0329
<http://sakematsuri.com/index.html>

「様々な層が一体となってまつりを手づくりし、つながりや信頼関係を高めることが酒まつりの一番の目的。人がまちをつくりあげ、地域の力になる。まつりは市民の絆を強め、地域振興を果たす大切なコミュニケーションツールです」と語るのは、酒まつり実行委員長の村上孝治さん。

現在、市庁舎の建て替えが進み、JR西条駅の再開発も計画されている。「これからまちは様変わりする。それに伴い2011年より、日本酒の根本を担う人・水・米の3要素をまつりのテーマに盛り込み、それぞれの良さを生かした会場づくりを実践。さらなるエリアの拡大など新しい構想も進行中です。時代に即した仕組みや人間関係をしっかりと構築し、次世代へ継承するのが私たちの役目。長く続けるためにも市民のマインドを盛り上げ、結束力をより強める運営を目指したい」。さらに観光協会では、年間を通して観光客を呼ぶための取り組みをスタートさせ、新しいイベントも企画している。

人から人へ受け継がれる『酒まつり』が、地域の中でのように進化していくのか楽しみなどところだ。

(文責・CEL編集会)

CEL